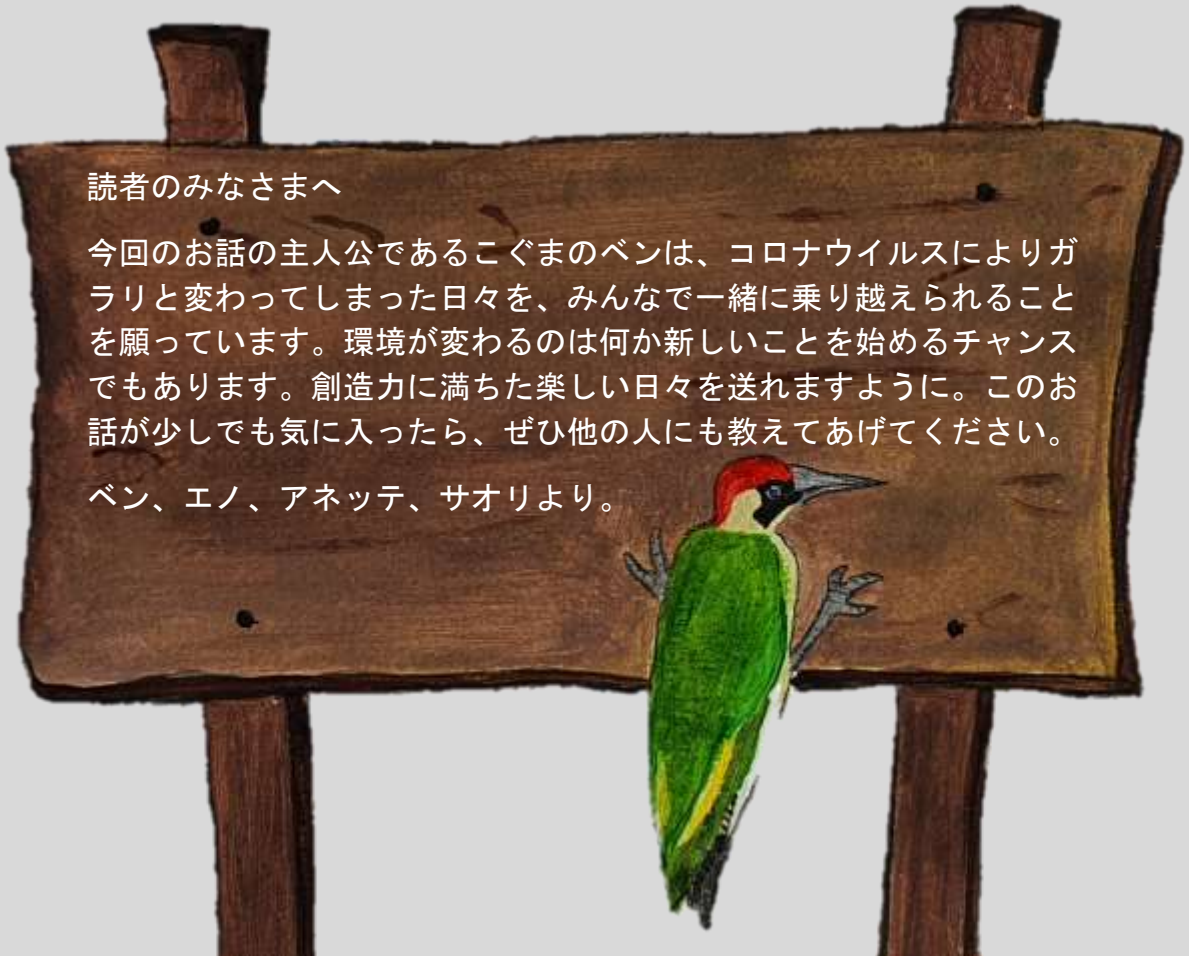
# キセキの森での大騒動

―すべてはこの病気からはじまった

（文）ビヨーン・エンノ・ヘルマン

（絵）アネッテ・ヴァルター

（訳）長坂沙織



読者のみなさまへ

今回のお話の主人公であるこぐまのベンは、コロナウイルスによりガラリと変わってしまった日々を、みんなで一緒に乗り越えられることを願っています。環境が変わるのは何か新しいことを始めるチャンスでもあります。創造力に満ちた楽しい日々を送れますように。このお話が少しでも気に入ったら、ぜひ他の人にも教えてあげてください。

ベン、エノ、アネッテ、サオリより。

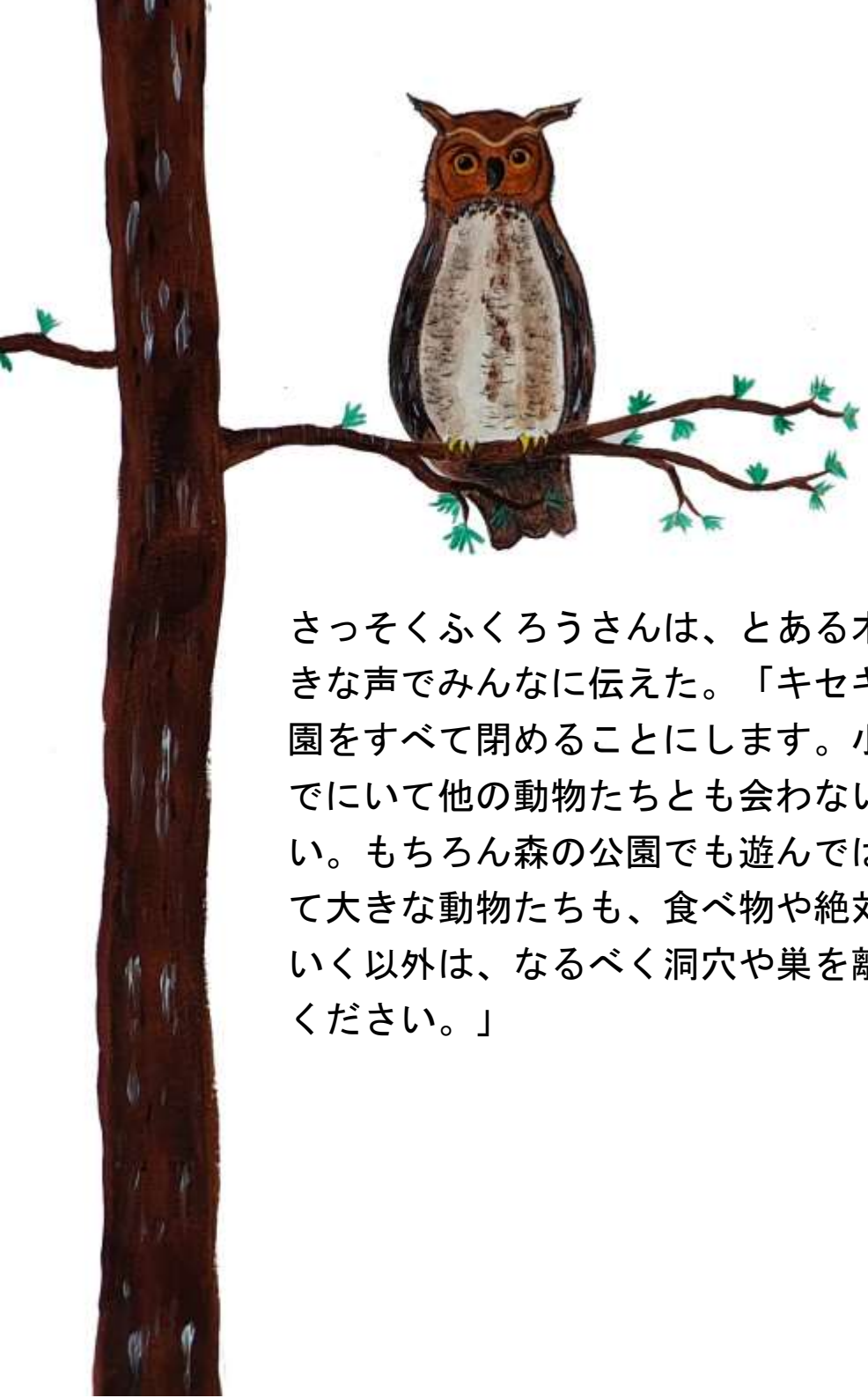
こぐまのベンは３さいだ。パパとママ、そして兄弟たちとキセキの森というところに住んでいる。そこはすばらしい森で、ほかの動物たちもたくさん住んでいるんだ。ベンが一番好きなのは保育園に通っているともだちたち。そして保育園にはいっぱいみるものやあそぶものがあるんだ。

おじいちゃんとおばあちゃんもこの森の近くに住んでいるから、しょっちゅう遊びに行くんだ。水曜日に保育園に行ったあとはかならずね。それどころか週末にはお泊まりも許されている。もちろんママたちとおうちにいるのも好きなんだけどね。ベンにはお兄ちゃんと妹がいて、いつもはなかよしなんだけど、たまにけんかをすることもあったかな。

ある日の夜、ベンはパパとママが話しているのを聞いた。どうやらとある病気のことを話しているみたいだ。どこか遠くにある別の森で、たくさんの動物たちが病気になっているんだって！そしてその病気は、これまでまだだれもかかったことがないらしい。病気になった動物たちは咳や熱がでて、たいていはすぐにまた元気になるんだけど、なかには病気がひどくなっちゃうこともあるんだって。そうなると病院にいかないといけないんだ。とくに森のおとしよりの動物たちや、これまでにほかの病気になった動物たちはね。ベンのパパとママも、この新しい病気がキセキの森にもあらわれるんじゃないかと、ちょっと心配しているみたいだ。でもその別の森っていうのは、ものすごく遠いところにあるんだけどね。

それから何週間かたっとき、ベンはキセキの森にすむアナグマくんが、高い熱をだして咳もコンコンしていることをきいた。みんなそれは新しい病気のせいだっていっている。ベンもそう思った。そしてそれは本当にその病気だったんだ。幸運なことにアナグマくんはすぐに元気になった。でもその病気はすごい早さでうつっちゃうみたいで、まわりにいた動物たちも病気になってしまったんだ。

まさに別の森でおこったことと同じことがおきてしまった。若い動物たちはたいていすぐ元気になるか、自分が病気ってことにもまったくきづかないんだって。ほとんどの動物は病気がおもくなることはないんだけど、おとしよりの動物にはとってもあぶない病気なんだ。



ふくろうさんはキセキの森のリーダーだ。人間の世界でいうと、そうだなぁ、王様みたいなえらい人。彼女は森の安全を守るためにみんなに指示をださないといけない。ふくろうさんは考えた。この病気をなんとか止める方法を見つけないといけない。そして「動物たち同士が会わなくなることが、病気をうつさないゆいいつの方法だ」と確信したんだ。

さっそくふくろうさんは、とある木の前に立つと、大きな声でみんなに伝えた。「キセキの森の学校や保育園をすべて閉めることにします。小さな動物たちは家でにいて他の動物たちとも会わないようにしてください。もちろん森の公園でも遊んではいけません。そして大きな動物たちも、食べ物や絶対いるものをとりにいく以外は、なるべく洞穴や巣を離れないようにしてください。」

森の動物たちはとっても驚いた。もちろんベンもだ。耳をうたがうような話だ。すべてが閉まる？一体どうなってしまうんだろう？その上ひんぱんに前足も洗わないといけないんだって。咳をするのも、くしゃみをするのも顔をふさがないといけない。そんなことはベンだって知っていたし、やっていた。それよりもベンは、もう保育園にいけなくなるということが残念で仕方がなかった。

そしてふくろうさんは最後にこう言った。「小さな動物たちは絶対におじいちゃん、おばあちゃんのところへは行ってはいけません。」これにはキセキの森のみんなが驚いた。ふくろうさんはなんてことを言うのだろう？

ベンはとても悲しい気持ちになって涙がこぼれてきた。ふくろうさんは続けた。「この病気におとしよりの動物がなってしまうと、とくに危険なのです。そして若い動物はおとしよりにうつしてしまうのです。」これにはみんなが納得した。おじいちゃんやおばあちゃんもとても悲しむだろう。なんといっても孫たちにとっても会いたいはずだから。

でも、ここはみんながちゃんとしないといけない。だって病気をおじいちゃんやおばあちゃんにうつしたくないもの。そうとなったら、しばらくの間ベンのおじいちゃんたちも、食べ物をとりに行く時以外はおうちですごさないといけない。

一番安全なのは必要なものをおうちの外まで持ってきてもらうことなんだ。

そして小さい動物たちはみんな家にいて、パパやママ、そして兄弟たちだけで遊ぶんだ。

それから数週間が過ぎた。ある夜ベンはパパとママから、病気の動物たちが少なくなったという話を聞いた。だからようやくおじいちゃんやおばあちゃんとも会ってもよくなったんだ。ベンはもちろん大喜びした。

でも一番うれしいことは、おじいちゃんたちが病気にならなかったことだ。そのためにみんな長い間がまんしてきたんだもの。

それから数日後、保育園が始まったことにベンはまた大喜びした。やっといままでの生活が戻ってきたんだ。ベンのパパとママも嬉しそうにしている。「みんなよくがんばったわね」とママが言った。ベンはうなずきながら、「こんなへんな病気が二度とでてきませんように」と心の中で思った。